

第3学年 道徳科学習指導案

日 時：平成30年9月10日（月）5校時

場 所：第3学年教室

指導者：T1 教諭 佐藤 由那

T2 養護教諭 大場 亜珠

1 主題名 本当の友達 B－（9）友情，信頼

2 主題について

（1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編の内容B「主として人との関わりに関すること」の（9）「友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと」を受けて設定した。

友達は，家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり，友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して，互いに影響し合って構築される。友達関係は，児童にとって最も重要な人間関係の一つであり，友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。気の合う友達同士で仲良くすることにとどまらず，友達のことをよく考えて，よくない行為は受け入れないことも大切だということを踏まえた健全な友達関係を育てていくことが必要であると考え，本主題を設定した。

（2）児童について

本学年は，男子5名，女子3名，計8名の学年である。本時の授業にあたって関連する意識調査の結果は，以下の通りである。

（7月13日実施 男子5名 女子3名 計8名 質問紙法）

A（だいたい身に付いている） B（どちらかといえば身に付いている） C（あまり身に付いていない） D（不足しているので今後身に付けたい）	A	B	C	D
自分でできることは自分でやり，わがままをしないで生活する。	1	6	1	0
よく考えて行動し，あやまちはずなおに認める。	3	3	0	2
友達と仲良くし，お互いに助け合う。	5	3	0	0
広い心を持ち，自分とは違う意見や立場も受け入れることができる。	4	4	0	0

意識調査の結果から，本学年の児童は友達と仲良くしたり自分とは異なる立場を受け入れたりする意識が高いことがうかがえる。その一方で，自立した行動やあやまちを認める行動が不足していると感じている児童も数名見られる。

学校生活では，友達関係の構築が苦手な児童が数名見られ，自分の気持ちが友達に伝わらずトラブルになることもあった。しかし，全員で外遊びをしてみるといった仲の良い様子がうかがえるようになってきた。

また，困っている友達に優しく声を掛け手伝う児童の姿も多く見られる。一方で，友達の歯磨きの準備や当番活動を一から手伝うといった行動も見られ，友達が自分でできる事まで手伝っていることがうかがえる。また，「友達と一緒にだから」という理由で善悪の判断が曖昧になり，休み時間の過ごし方に影響が出ることもある。

道徳や朝の時間で行っている対話では、積極的に発言する児童と控えめな児童に分かれ、発言回数に差が見られる。8名で対話を進めるため、児童の発言から教師が適切に話題を転換させる必要がある。

(3) 教材について

① 教材名 「なかよしだから」 出典：「新しい道徳3」 東京書籍

② 価値 B－(9) 友情, 信頼

③ 教材について

算数の宿題を忘れてきた「ぼく」が、自分の利害を優先し、仲良しの実さんに答えを教えてほしいと頼む。前日、カーブの投げ方を教えてあげたから、そのお返しに答えを教えてくれると考えたのである。しかし、実さんの「なかよしだから、なお教えられないよ」の言葉に込められた気持ちに気付かず、「ぼく」は不快感をもち、実さんに冷たく接してしまう。帰宅後、「ぼく」は実さんにしたことが気になり、実さんがなぜ断ったのか考え込む。

実さんが、「ぼく」のことを思って言った言葉に込められた気持ちを考えさせることによって、友達だからこそ時に断ったり忠告したりすることも大切だということに気付かせ、友達とのよりよい関わり方を考えさせることに適した教材である。

④ 教材分析 (別紙)

(4) 指導にあたって

健全な仲間集団を積極的に育成していくためには、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことが必要である。気の合う友達となかよく遊ぶだけでなく、友達同士だからこそ忠告したり制止したりすることも友情の表れであることに気付かせたい。本時では、教材文を読む前と後での「友達のためになること」を比較し、友達のことを思ったよりよい関わり方について話し合わせる。終末場面では、「友達のためになること」について考えたことを生かし、日常生活において何ができるかを具体的に考えさせる。

対話の中で多様な考えを引き出したり、友達の考えをもとに自分の考えを深めさせたりするために、TT指導を行う。「友達のためになること」についてT2から見た児童の様子を話したり経験をもとにした問い返しをしたりすることによって、対話の内容を深めさせ本時のねらいに迫りたい。

(5) 研究の視点

【視点1】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業展開の工夫

① 自他との対話を促す支援の工夫

a 事前読みと課題設定

- ・家庭学習で教材を読み、「あすなるノート」に感想を書かせることによって、教材への関心をもたせ、主体的に課題設定ができるようにする。
- ・「なぜ～」で始まる一文で考えさせることによって、教材を読んで疑問に思ったことを課題として書くことができるようにする。

b 対話中のツールキットの活用と問い返し

- ・「なぜなら～」のツールキットを活用することによって、自分の立場を明確にし、考えの根拠

を明らかにして発表できるようにする。

- ・予想される反応に対して、問い返しを予め教師が何パターンか準備することによって、価値理解、人間理解、他者理解、自己理解がより深まる対話を進められるようにする。

c ネームカードを用いた意思表示

- ・ネームカードを使って集団の中の自分の立場を可視化させることによって、友達の考えとの違いを理解させ、多面的・多角的な見方につなげる。

② 「あすなろノート」の活用

- ・授業の最後に対話を振り返り、本時の授業で考えたこと「あすなろノート」に書かせることによって、自己内対話させ、考えたことを日常生活に生かせるようにする。

(6) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言3, 4を踏まえ、授業のまとめの段階で振り返りの時間を設定し、自分の考えをノートに書かせる。

提言5を踏まえ、事前に家庭学習で教材を読ませ感想と本時で話し合いたい課題を考えさせる。

4 本時の学習

(1) ねらい

対話をとおして友達のためにできることを考えたり、友達のことを理解したりすることで、友達とのよりよい関係の在り方を考える。

(2) 準備物

- ② 教師 : 掲示用挿絵, ツールキット, コミュニティボール, ネームカード, 心情スケール
ホワイトボード, スケッチブック
- ③ 児童 : 教科書, 筆記用具, あすなろノート

(3) 学習過程

段階	学習活動 (◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	・指導上の留意点 ◇評価(方法) ※研究の視点 【5つの提言】
事前	【家庭学習】 ・教材を読み、感想と自分で考えた課題を「あすなろノート」に記入する。 【朝の活動】 ・みんなで話し合いたい課題を考え、全員で選ぶ。 ・選んだ課題に対する自分の考えを書く。 ・「友達のためになること」をした経験を想起させる。	・家庭学習で教材を読み、「あすなろノート」に感想を書かせることによって教材への関心をもたせ、主体的に課題設定できるようにする。 ※①a ・「なぜ～」で始まる一文で考えさせることで、教材を読んで疑問に思ったことを課題として書かせる。 ※①b ・学校生活を振り返り、「友達のために○としてあげた」という経験を話させる。

<p>本時 導入 5分</p>	<p>1 教材の内容を確認する。 ・教師の範読を聞く。</p>	<p>・教材文の流れが分かるよう、挿絵やせりふを提示する。</p>
<p>展開 30分</p>	<p>人間理解</p> <p>2 教材をもとに、児童が選んだ課題について対話する。</p> <div data-bbox="368 412 1398 477" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○(例) なぜ、実さんは「ぼく」となかよしなのに答えを教えなかったのか。</p> </div> <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、「ぼく」は怒ってしまったのか。 ・なぜ、「ぼく」は家に帰ってから実さんにしたことが気になってきたのか。 <div data-bbox="368 687 1311 752" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○あなたは、怒った「ぼく」の気持ちが分かりますか？分かりませんか？</p> </div> <p>【わかる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達なのに、どうして教えてくれないのか、と怒ると思う。 <p>【分からない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題は自分でできるのに、答えを教えてもらおうとしているから、怒るのはおかしい。 <p>【中間層】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でやってくればよかったと思うけど、怒るかもしれない。 	<p>・課題に対する「ぼく」の気持ちについて、自分はどう思うかをネームカードで意思表示させ、友達の考えとの違いを理解させる。 ※①c</p> <p>・「ぼく」の気持ちに焦点を当てることで、教材文の前半で実さんの気持ちに気づけなかった時と、後半で実さんに冷たく接してしまったことを考え込む時の心の揺れに気づかせる。</p> <p>・友情、信頼について対話を進めるために、実さんは「ぼく」のことを思って答えを教えなかったことを、主発問を投げ掛ける前に全体でおさえる。</p>
<p>価値理解</p>	<div data-bbox="368 1469 1343 1534" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎「友達のためになること」とは、どんなことだろうか。</p> </div> <p>【反応A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよしでも、だめなことはだめと言ってあげること。例えば、教室で鬼ごっこしようと言われたら、だめと言ってあげる。 ・友達のために、「がんばれ」と応援してあげること。例えば、走るのが苦手な人を応援してあげる。 ・みのるさんのように、友達のためにわざと答えを教えない。でも、一緒に考えてあげてもいいと思う。 	<p>・導入時に想起した「友達のためになること」について、教材文中の実さんの行動や、役割演技をして気付いたことを踏まえて再度考えさせる。</p> <p>・「たとえば？」という問い返しをすることで、友達のためになる具体的な行動も考えさせる。 ※①b</p> <p>・T2が児童の考えをホワイトボードに書き出し円座の中心に提示することで、児童が友達の考えをもとに思考を深められるようにする。</p>

	<p>他者理解</p>	<p>【反応B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っていたら，助けてあげること。例えば，鉛筆を忘れてきた人がいたら，貸してあげる。 ・遅い人を手伝ってあげること。例えば給食の身支度を手伝ってあげる。 <p>【反応C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頼まれたら，何でもしてあげること。なぜかという，断るともう遊ばないと言われるから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○もっとよい友達になるために，どんなことができますか。</p> </div> <p>(例)・給食着を着せてあげるのは，友達のためにならないと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・でも，困っているのなら助けてあげることは大事だと思います。 <p>T2・給食着は自分で着た方が友達も安心すると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反応に対する問い返しを行うことで，多様な考えを引き出させる。 <p>【反応Bの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆を貸してあげることと宿題の答えを教えることとは，どう違うのかな。 ・ずっと手伝っていたら，友達は給食着を自分で着られなくなるかもしれないよ。 <p>【反応Cの問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に頼まれたら，本当にどんなことでもしてあげられますか。 ・もう遊んであげないという人は，本当にあなたの友達だろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・導入時にふり返らせた「友達のために〇〇してあげた。」という経験の中から具体的な場面を選び，これからの友達との関わり方について考えを交流させる。 ・T2の立場の考えを示すことで，友達のためにできることについて多面的に考えさせる。
<p>まとめ 10分</p>	<p>自己理解</p>	<p>3 心に残った友達の意見と，自分が考える「友達のためになること」とは何かをノートにまとめ，共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を振り返り，本時の授業を通して考えたこと書かせることによって，自己内対話させ，自分自身の姿を見つめ自己理解を深められるようにする。 <p style="text-align: right;">※②【提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数名の児童を意図的に指名し，書いた内容を発表させることによって，考えの共有を図る。 <p>◇対話をとおして友達のよさを発見したり，友達のことを理解したりすることで，友達とのよりよい関係の在り方を考えることができたか。</p> <p style="text-align: right;">(発言・ノート)</p>

(4) 評価

- 対話をとおして友達のためにできることを考えることで、友達とのよりよい関係の在り方を考えていたか。(発言・ノート)

(5) 板書計画

挿絵

「友達のためになること」とは、
どんなことだろうか。

・ぼくは知らないふりをして、
口をきかなかった。
・家へ帰って…
実さんにしたことが、気になってきた。

挿絵

教える

ぼく・「そんなのあるか。もういいよ。」

教えない

ぼく・「どうして…。きみはぼくと
なかよしだろう。」

み・「なかよしだから、なお教えられないよ。」

「宿題をわすれてきたんだ。答えを教えてください。」

「もんだいが3つしかないんだから、自分でやれよ。」

みのるさん

ぼく

なかよしだから